

知内ソーシャルクリニック

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター
社会協働部門長 奥 平 理

【1】「知内ソーシャルクリニックにかかる情報交換会」の実施に向けた取り組み

本学では、2016年に知内町と締結した「相互協力協定」にもとづき「知内ソーシャルクリニック」を展開してきた。これまでの取り組み実績としては、小谷石再生プロジェクトの実施、矢越山荘（旧矢越小学校）や空き家（旧秋田家住宅）の活用、地域構造の明確化と課題抽出（フェノロジーカレンダー作成、食をテーマとしたコミュニティ再生等）、さらにコミュニティスクール事業における湯ノ里小学校・涌元小学校・知内小学校、知内高校との連携等さまざまである。しかし、協定締結から6年が経過し、双方の担当者の変更等も重なったことから、これまでの取り組みの評価・検証と共に、あらためて新たな地域課題の抽出と協働の可能性を探ろうと、今年度は巡回型サテライト・オフィス（以下、「巡回SC」）に準じる形で「情報交換会」を開催する方向性を確認した。

【2】事前打合せ <5月31日（火）13:00～14:00 Zoom開催>

事前打合せでは、知内町と本学との間で情報交換の必要性について認識が一致したことから、今回は役場内から広く話題を提供してもらい、それについて情報交換を行う提案をしたところ、快諾が得られた。また、役場内で得られた話題を部署ごとに取りまとめ、事前提出してもらえることになった。今後は、巡回SCに準じた「情報交換会」を開催する方向で検討することになった。

次に開催時期について話し合ったが、6～7月は町の行事等で開催が困難であるため、8月中の可否を確認したところ、8月3日（水）であれば可能であるとの回答があった。また、会場は中央公民館を検討中とのことであった。担当者からは、情報交換会で「空き家の活用事例」や「重内神社の観光での活用」「外国人労働者受け入れ施設増加に伴う彼らへのケアや住民との連携について、学生の参加が求められている」などの話題提供があった。

【3】知内ソーシャルクリニックにかかる情報交換会 <8月3日（水）13:30～16:30 知内町中央公民館>

当日は、西山町長を始めとする町側参加者と、様々な意見を交換することができた。主な話題は以下の表のとおりである。

知内町参加者	本学参加者
空き家の活用について	空き家を使ったシェアハウスで、学生が主体となって地域を盛り上げるイベントを行なっている地域プロジェクトがある。
知内町の観光について	①開発局と連携して、サイクルツーリズムを観光資源とするため、道南の道路を「8の字」に結ぶコースを、ナショナルサイクルルートに昇格できないか検討中。知内町は地理的にも重要で、道の駅を自転車旅行の拠点にできる可能性もある。 ②知内町の重内神社と周辺の農地は最高の景観である。地元の人は気づいていなくても、外から見ると魅力的なものの典型的な例である。
知内町の教育について	①地域プロジェクトの簡易版として「探求の時間」に使えるようにノウハウを教えている。進んだ内容に、本学側も感嘆しており、互いに刺激し合い、高め合っていける関係である。一緒に学んでいけるところを考えていきたい。 ②「学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校づくり」を目指し、学校の先生と地域の人によって地域づくりをしていく。進学などで町を離れた若者にもその気持ちが伝わって知内町に戻ってくることを願っている。

内容的にも巡回SCの重点項目である「観光・教育」とも合致しており、充実した情報交換会となったが、新たな協働の取り組みなど具体的な検討については、今後とも継続的な意見交換を進める中で、互いに見出していくことになる。いづれにしても、今後も、知内町の地域創生へ向けて地域協働の取り組みを積極的に進めていきたい。



西山町長（左）と五十嵐キャンパス長（右）



意見交換の様子

令和4年8月13日 函館新聞 2面

函教大SC事業 知内町と意見交換 協働活動の可能性探る

空き家対策や観光振興など

【知内】道南の地域と協働で課題解決を図る事業「ソーシャルクリニック（SC）」を行う道教育大函館校はこのほど、町中央公民館で、町と意見交換し、今後の協働活動について可能性を探った。（鈴木 潤）

同事業は地域課題を診り取り組んでいる施策を紹介し、治療する診療所をイメージした同大オリジナルの「地学協働モデル」で、学生、教職員と地域住民が一緒に地域特有の課題解決を目指す取り組み。学生は実学や研究の場となり、地域にとっても大学の学術、知的資源を活用した活動ができるなど双方にメリットがある。

同大と町で締結した包括連携協定に基づいて新たな取り組みを検討しよう」と、現状把握と意見交換の場を設けた。3日に開かれ、大学側は五十嵐靖夫キャンパス長をはじめ地域協働推進センターの教員、学生計7人、町側は西山和夫町長や地域振興、観光、教育を担当する職員計9人が出席した。

冒頭、西山町長は「いろいろな課題に直面している知内町を応援してほしい」とあいさつ。意見交換では、町側の各担当者が空き家対策などの課題や現在取

組んでいる施策を紹介し、観光振興施策で担当者が観光スポットの点在や移動手段、情報発信の方法などいくつか課題を挙げたのに対し、奥平理准教授（観光学）は「ウイズコロナを見据えインバウンド（訪日外国人）への対応が重要。中高生を観光ガイドとして養成すれば継続可能な取り組みになる」と助言。北海道開発局が推進するサイクルツーリズムで、道南でナショナルルート指定に向けた動きがあることを紹介したうえで「知内も重要な拠点の一つになる」と指摘した。

今回の意見交換を踏まえ、今後、双方さらに協議し、活動の方向性や内容を詰め、来年度の実施を目指す。

道教育大函館校と町職員で行ったソーシャルクリニックの意見交換